

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	さきちゃんち運営委員会	作成日	2月28日
事業名	みんながつながる「ワークスペースさきちゃんち」		
協働団体	① 文京区生活福祉課 ② 文京区社会福祉協議会 ③ 文京区民生委員・児童委員協議会 ④ 茗荷谷クラブ（公益社団法人青少年健康センター） ⑤ 家族会（文京区ひきこもり家族連絡会） ⑥ 他団体：NPO法人サンカクシャ、富坂生活あんしん拠点、駒込生活あんしん拠点 ※ 地域で活躍する専門家（文京区ひきこもり等支援者連絡会で知り合った方々、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士、看護師、弁護士、社会福祉士など）		
自団体及び協働団体の役割分担	① 文京区生活福祉課：連携、イベント等による活動周知協力など ② 文京区社会福祉協議会：関係団体・機関との仲介、活動支援・助言 ③ 文京区民生委員・児童委員協議会：講座、ひろば・サロン、チャレンジ・プログラムへの参加・協力 ④ 茗荷谷クラブ：専門的助言、講師派遣、当事者の仲介 ⑤ 家族会：ひろば・サロンへの参加、チャレンジ・プログラムの企画 ⑥ 他団体：取組趣旨への賛同、講座・ひろば・サロン・チャレンジプログラムへの参加・協力 ● さきちゃんち運営委員会：事業企画・運営管理、当事者や家族の活動のサポート、周知		
	■ 2021年度の取り組みのねらいと結果 2021年度は、不登校やひきこもりなどの社会的孤立の状態を長引かせないために、早い段階で社会との接点を持つことができ、包摂される仕組みを生み出すことを目的に、新しく開設したワークスペースさきちゃんちを活用し、社会的に孤立している方が社会との接点を得られるように、当事者や関係者などとともに居場所を整え、ゆるやかに関わる機会（ひろば／サロン）を設けた。また、不登校やひきこもりなど社会的孤立に係る実態や課題、一人一人ができることの知識を、地域の方や関係者とともに理解し、共有する勉強会等を開催した。 取り組みの結果、当事者やその家族に場を利用していただいたり、理解を深める勉強会等に目標以上の方に参加していただくことができた。		

提案背景・目的

■新たに得られた気づき

取り組みを通して、不登校やひきこもりなど社会的孤立の課題に当たって以下の気づきを得た。

【心理的に安全な場が常時開かれていること（受け止めることができる体制）と、それが継続的に運営されることの重要性】

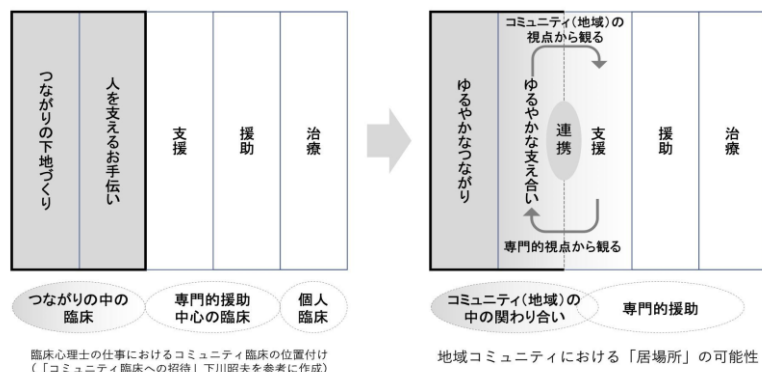
不登校やひきこもりなど社会的孤立の状態にいる方が社会との接点を持つ瞬間はいつ、どこで生じるかは予測が難しい、また、他人との関わり・対話が日常化する中のふとした瞬間に、当事者や保護者、支援者などの関係者の本音やつぶやきに触れることができる。そのような機会を逃さないためにも、心理的に安全な場が常時開かれていることが重要である。

【当事者・関係者、地域の方や地域の理解者・協力者、専門家・専門機関、そして行政機関等とのフラットな関係性と相互連携の重要性】

不登校やひきこもりなど社会的孤立の状態にある方の背景は多様であり、誰もがそのような状況になる可能性があると考えられる。一人が孤立すると家族など身近な人も社会から孤立しやすい状況にある。自己責任論では、孤立するのは当事者の問題であり、当事者自身が努力して変わり、自ら社会に復帰すべきとされるが、このことがさらに多くの人を孤立に追い込む。つまり孤立を引き起こしているのはこの社会自体の課題といえる。

不登校やひきこもりなど社会的孤立の課題に向き合うためには、私たち自らが抱えている課題であることを認識し、地域の理解者・協力者を増やし、専門家・専門機関、そして行政機関等とのフラットな関係性で相互に連携し、当事者・関係者とともに取り組む必要がある。

現在、地域と専門家・専門機関、行政機関等との連携は端緒に立ったばかりである。コミュニティ（地域）の視点、専門的の視点から、それぞれの長所・短所を認識し、補い合いつつ課題に向き合う連携体制を整えていくことが重要である。



	<p>■2022年度の目的</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域に開かれたひろば／サロンを継続的に開き、当事者や関係者がいつでもアクセスできるようにする2. 社会的孤立に関わる地域の理解者・協力者を増やす3. 当事者や関係者が活動できる、役割を持てる状況を用意する4. 当事者・関係者、地域の理解者・居場所、専門家・専門機関、行政機関等がフラットに相互に連携できる仕組みを構築する
	<p>1. ひろば・サロンの運営（地域に開かれたひろば・サロンを開く）</p> <p>日常的な関係性を生み出す／紡ぎ出す機会として「ひろば・サロン」を運営する。「ひろば・サロン」は、その人のペースでその場に慣れ、楽しむことのできる機会を提供する。当事者が、関係者や勉強会参加者、地域の協力者と接点を持ち、役割を持てるようになるための日常的な環境を整える。</p> <p>今年度は場の日常性を確保するため、平日サロンが開いていない時も場を開くことを目指し実施した。</p> <p>【これまでのひろば・サロン】</p> <ul style="list-style-type: none">・まちの本棚・なにしょっかクラブ・みんなの手作りサロン・Sunny's Café サロン・哲学カフェ@さきちゃんち・ほっこり庵 <p>【新たに開設したひろば・サロン】</p> <ul style="list-style-type: none">・さきちゃんち保健室カフェ・たまご食堂 <p>【他団体が開催したひろば・サロン】</p> <ul style="list-style-type: none">・みんなのひろばみんなのひろば・若者向けの居場所開催 <p>助成事業期間（303日間）中に、192日、231回（週に4～5日、5～6回）開くことができた。</p> <p>多世代の方が多く利用する中で、連携団体の紹介や付き添いで来られた当事者の他に、自ら（一人で）来られた方もおり、複数回来られて顔馴染みになられた方もいる。</p>

事業内容

2. 地域で社会的孤立に関わる課題を聞く・知る・伝える（理解者・協力者を増やす）

不登校やひきこもりなど社会的孤立の状況や課題、孤立している人との対話・関わり方、地域における社会との接点、社会において役割を持つこと、等について、事業に関わる人が知り、考えることで理解者を増やし、地域の不登校やひきこもりなど社会的孤立に対する受容を広める。

当事者、関係者、地域の人がひきこもり・社会的孤立について知る・考える機会を設け、さらに広めていく取組みを実施する。多世代型の居場所としての全般の活動を紹介する中で、不登校やひきこもりなど社会的孤立に関する課題にも触れ、日常では知る機会のない方にも情報を提供できるようにする。

① 視察・情報収集

【視察】類似の取り組み事例、先進事例の情報収集及び視察

- ・ 楽の会リーラ（カフェ葵鳥）
- ・ 東京ボランティアセンター
- ・ JoBridge
- ・ 未来食堂
- ・ 暮らしの保健室

【講座等参加】サポーター養成事業などへの参加

- ・ 文京区主催のSTEP講演会（2回）
- ・ 文京区こころサポーター養成研修（2回、6人修了）
- ・ 文京区社会福祉協議会 第74回フミコムcafe「社会を枠の外から眺めてみると～『支援』を前提にしない子ども・若者との『かかわり』『つながり』とは？」
- ・ 茗荷谷クラブ 8050アウトリーチサポーター研修（3回、3人登録）
- ・ 茗荷谷クラブ ゆったりカフェレオン8050（3回）
- ・ 民間団体主催 コミュニティで、できる、つながる！ひきこもる人との関わりかた（3回）

② 社会的孤立に関わる上映会・勉強会の開催

【上映会】関連するテーマでシネマダイアログを開く（2回）

- ・ NHK福祉事業財団よりひきこもりに関する映像資料を取り寄せ、視聴会を開く

【勉強会】社会的孤立に関する勉強会を開催（4回）

- ・ 「不登校の子どもたちとの過ごし方」緒方広海氏
- ・ 「若者がまちとつながる就労支援」サンカクシャ、さくらや文京店
- ・ 「一人のひきこもり経験者として皆様にお話ししたいこと」割田大悟氏
- ・ 「社会的孤立を防ぐために地域でできること」市川乙允氏

※感染症の状況によってオンラインを活用し、実施した。

③ 就労体験となるようなチャレンジワークをWSさきちゃんちで創出するための整備とその活動を紹介するリーフレットの作成

2022年12月から翌年2月まで、文京区生活福祉課、文京区社会福祉協議会と協議を重ね、リーフレットを作成、印刷した。

(別紙参照)

3. チャレンジ・プログラムの企画・運営（活動できる、役割を持てる状況を用意する）

チャレンジ・プログラムは、昨年度のひろば・サロンでの対話やイベント等に参加したひきこもり当事者本人・関係者の意見・要望等をもとに企画、実施するプログラム。当事者がちょっとだけ覚悟を持って、さきちゃんちのひろば・サロン運営、イベント開催等において役割を見つけ、活動できる中間的就労の機会をつくっていく。関係者や地域の協力者は対話などをおして寄り添い、当事者本人自らの興味や役割、就労等に関わる希望と意思を把握し、ともに実施・展開する。

チャレンジ・プログラムの実施

- ・工具収納用棚をDIYで製作（5月から7月にかけて製作）
- ・ゆるカフェ（茗荷谷クラブ利用者による子ども向け企画）4回
- ・チャリティー♡バザー（季節ごとに実施。準備、運営補助の作業に入ってもらおう）3回
- ・1日パン屋さん（福祉作業所で焼いたパンを販売）4回
- ・ブックカバーかけ（さきちゃんちの貸出図書に保護コートをかける）3回
- ・データー入力（さきちゃんちの事務データの入力）1回
- ・使用済み切手の整理（回収した使用済み切手を紙から剥がし、整理）2回

4. 地域で社会的孤立する方を包摂していく方法を考え・やってみる（相互連携の仕組みを構築する）

地域でひきこもり・社会的孤立の課題に向き合うために、中間的就労を含む課題が私たち自らが抱えているものであることを認識し、地域、専門家・専門機関、そして行政機関等とのフラットな関係性で相互に連携し、当事者・関係者とともに取り組む方法を考え、試行する。

- ・文京区ひきこもり等支援者連絡会に参加、開催 4回
- ・団体内でオープンダイアログを試行 3回
- ・さきちゃんちダイアログの開催（認定NPO法人PIECESの協力） 3回

<p>協働団体 or 利用者の声</p>	<p>(茗荷谷クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(スタッフが同伴できず) いきなり単独での参加だったけど、よかった。 ・今月で文化祭の活動が終わりますので、ゆるカフェの活動を再開したいと思っております。 <p>(サンカクシャ)</p> <p>サンカククエストの枠組みを超えて、若者が立ち寄れる場所が増えて良かったなと思います。</p> <p>サンカクシャ内の会員限定サイトで、さきちゃんちの住所含めてチャレンジワークの情報を載せています。</p> <p>さきちゃんちに行ったことあるメンバーの話も聞いて、行きたいと思ってくれたのかと。</p> <p>サイト内のブログでも、満足した様子が伝わってきて、さきちゃんちのみなさんのおかげです！ありがとうございます。</p> <p>(利用者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(パン販売) 楽しかったので、次回もまた参加したいです。 ・(データ入力) 時間を忘れて入力していた。自分にとってデータ入力の作業は向いていると感じた。 ・(ブッカーかけ) もくもくと仕事をするイメージで緊張していたので、作業を一つ一つ丁寧に教えてもらいながらなごやかな雰囲気のできたのでよかった。またやってみたいと思う。データ入力にも関心があり、やってみたい。 ・(使用済切手の整理) 緩やかな感じで、おしゃべりしながら楽しく作業できました。人とおしゃべりできるのはよいと思った。
<p>協働による効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視察、勉強会の開催を通じて、新たな協働連携先と繋がることのできた(ネットワークが広がった)。 ・相互の協働・連携により、勉強会や研修の機会が増え、知見を広げることができた。(茗荷谷クラブ、サンカクシャ、認定NPO法人PIECES、NPO法人楽の会リーラ、ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜) ・文京区ひきこもり等支援者等連絡会に参加することにより、地域・居場所、専門家・専門機関、行政機関等の間の情報交換、話し合いの場ができ、協働の機会が増えた。 ・中間的就労の機会(チャレンジ・プログラム等の取り組み)や居場所について、当事者に紹介してもらったり、逆に協働団体にとって紹介できる場が増えたり、相互に有益な環境となった。

成果目標の達成度	<p>1. 当事者や関係者がいつでもアクセスできるようにする</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・週5日程度開館し、受け入れられる人がいる状態にする。 <p>→新たに2つ（さきちゃんち保健室カフェ、たまご食堂）のひろば・サロンを開くことができ、ほぼ週5日程度開館することができている。ひろば・サロンの担い手や利用者が増え、当事者や家族の利用も見られるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none">・Bチャレの趣旨を理解して、場にいる人が12人いる。 <p>→ひろば・サロンを主催する方、ボランティアで関わっていただいている方など、ひろば・サロンで利用者に接する関係者12名以上に、さきちゃんちの考え方（線引きをせず、多世代が利用できる居場所）にご理解をいただいている。</p> <p>2. 社会的孤立に関わる地域の理解者・協力者を増やす</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域で社会的孤立に関わる課題を聞く・知る・伝えることを目的とした企画*への参加者が延べ100名以上（*区との協働企画を含む） <p>→社会的孤立に関わる上映会・勉強会（計6回）に、あわせて延べ140名以上の参加者があった。</p> <p>→また、チャレンジ・プログラム（チャレンジワーク）の「ゆるカフェ」「チャリティー♡バザー」「1日パン屋さん」では、当事者が多くの地域の市民と相互を緩やかに関わる機会が生まれた。</p> <ul style="list-style-type: none">・社会的孤立に関わる地域の理解者・協力者を増やすために実施してきたことが記録・情報としてまとめられている <p>→実施した取り組みは実施報告として整理し、開催状況の写真等の記録を残している。（ただし、緩やかな関わりを持つことを優先しており、当事者の参加にあたっては、こちらから氏名や年齢、連絡先などの情報は聞き取っておらず、ご本人や連携団体からの情報提供の内容の把握に止まっている。）</p> <p>※勉強会の開催にあたって、連携団体や当事者会（ピアサポーター）や当事者・家族の支援者をお招きして関わることで、新たな連携の可能性やきっかけが生まれており、今後の活動に役立てられる。</p>
-----------------	--

	<p>3. 当事者や関係者が活動できる、役割を持てる状況を用意する</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ・プログラムの企画・運営:当事者参加約5名以上 <p>→記述のとおり中間的就労の機会となる取り組みを7つ以上行っており、それぞれに複数名の当事者の参加があった。記録として残している方だけでも19名の方の参加があった。</p> <p>※当事者の希望や得手不得手、状況などは十人十色で、それぞれに応じた関わりを丁寧に重ねていくことの重要性を改めて感じている。</p> <p>4. 当事者・関係者、地域の理解者・居場所、専門家・専門機関、行政機関等が集まり、フラットに連携できる仕組みを考える機会を設ける</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの想いを率直に話し合える「対話」の場を2回実施する <p>→すべての関係者が介しての対話の機会を設けることはできていない。</p> <p>→「文京区ひきこもり等支援者連絡会」は、支援者団体、専門家、専門機関、行政機関がフラットな情報交換の場となっており、ワークスペースさきちゃんちでの開催も実現しており、専門・非専門の垣根を超えたひきこもり等に関する理解を深める場となっている。</p>
<p>今後の活動予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動で増えた地域で社会的孤立に関わる理解者・協力者・サポーターと共に居場所や地域に「優しい間」が増やし当事者が居場所に出向きやすくする口 ・ 当事者等のニーズを把握しつつ、無理なく継続できるワークを創出、紹介する ・ 社会的孤立への対応にあたって相談、連携できる先を引き続き増やしていく ・ 関係者が自ら考え、展開するプログラムが自主的に運営される ・ 地域で社会的孤立を予防し、社会的接点（場と機会）づくりに継続的に取り組める仕組みの構築に関わる ・ 別の拠点や他の団体と連携して取り組みを展開していく。 <p>→今後は、新たに関わりが生まれている当事者（元当事者）や家族等の関係者、当事者支援団体（ピアサポーター）等との関わりと、相互に連携できる関係づくりをすすめていきたい。</p>

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：さきちゃんち運営委員会

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. ひろば/サロンの運営 (開催回数)		20	21	22	19	19	25	22	20	26	28	
2. 地域で社会的孤立に関する課題を 聞く・知る・伝える												
① 視察・情報収集 (実施回数)		1					4	2	3	3	2	
② 社会的孤立に関わる上映会・読書会 (開催回数) ・勉強会の開催			2	1		1		1		1		
③ 就労体験となるようなチャレンジワークをWSさきちゃんちで創出するための整備とその活動を紹介するリーフレットの作成 (作成期間)									◀■■■	■■■■	■■■▶	
3. チャレンジ・プログラムの企画・運営												
① チャレンジ・プログラムの実施 (体験) (実施回数)			1	1	1	2	1		2	4	5	
② チャレンジ・プログラムの実施 (作成期間) (DIYワークショップ)		◀■■■	■■■■	■■■▶								
4. 地域で社会的孤立する方を包摂していく方法を考え・やってみる												
※ 継続的な取り組みを目指すための対話 (実施回数)		4		1		2			1	1	1	
フミコム/関係課との会議	●		○		●			○	○	○	●	

別紙2：収支報告書

団体名：さきちゃんち運営委員会

収入 1,002,529 円

費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	1,000,000 円	
自己資金	2,529 円	
	円	

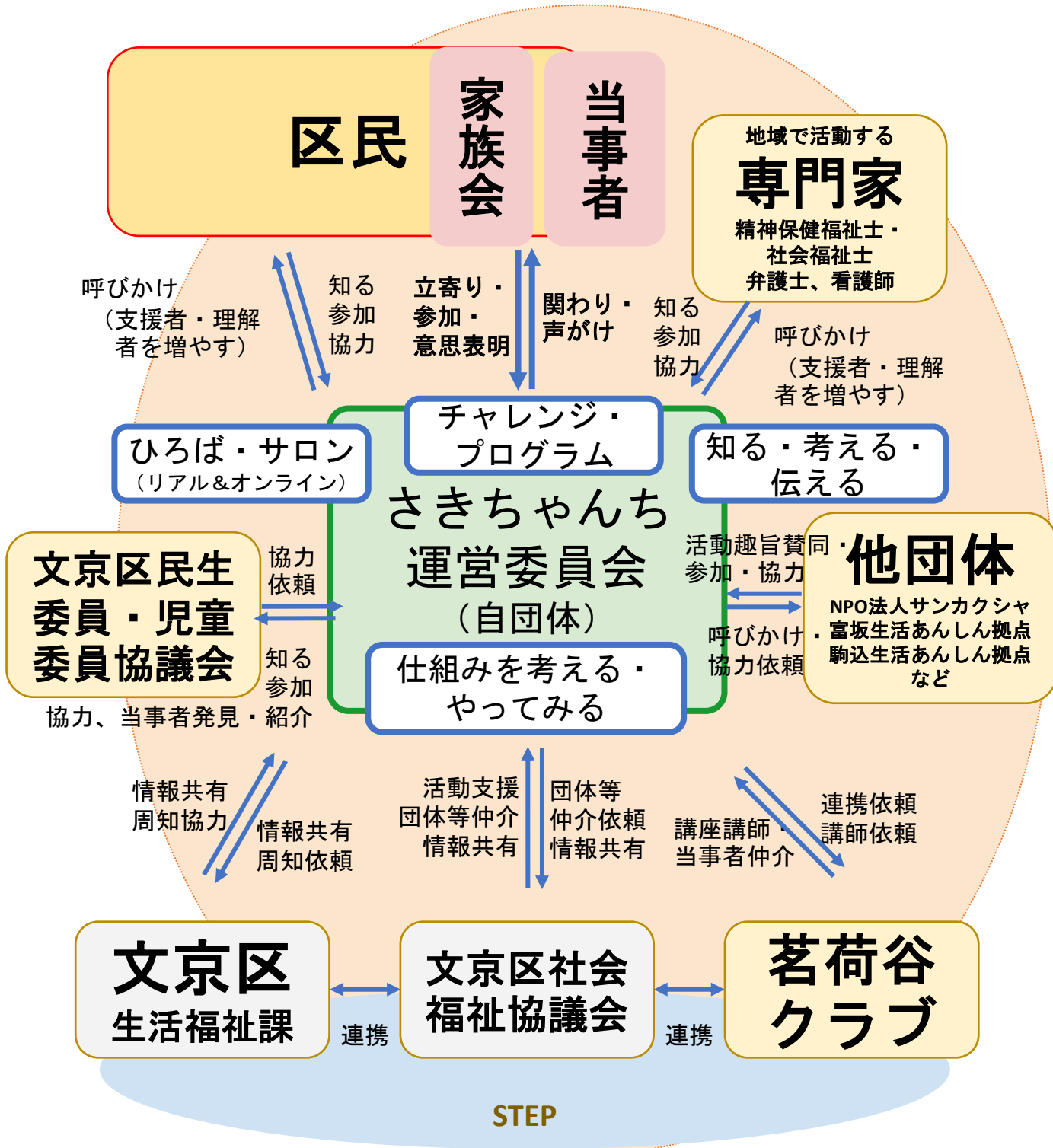
支出 1,002,529 円

費目	予算額	積算根拠
1. ひろば/サロンの運営	0 円	他の助成金活用
2-① 視察・情報収集	47,190 円	謝金 3,000、人件費 30,000、交通費 7,290、材料費 6,900
2-② 社会的孤立に関わる上映会・読書会・勉強会の開催	164,060 円	謝金 130,000、人件費 30,000、材料費 4,060
2-③ 就労体験となるようなチャレンジワークをWSさきちゃんちで創出するための整備とその活動を紹介するリーフレットの作成	41,680 円	印刷費 41,680
3-① チャレンジ・プログラムの実施(体験)	612,939 円	謝金 42,000、人件費 250,080、委託費 66,000、材料費 254,859
3-② チャレンジ・プログラムの実施(DIYワークショップ)	31,660 円	人件費 10,000、材料費 21,660
4. 地域で社会的孤立する方を包摂していく方法を考え・やってみる	45,000 円	謝金 15,000、人件費 30,000
その他取り組みの記録及び報告	60,000 円	人件費 20,000、印刷費 40,000

別紙3：関係者マップ

作成日：令和4年1月31日

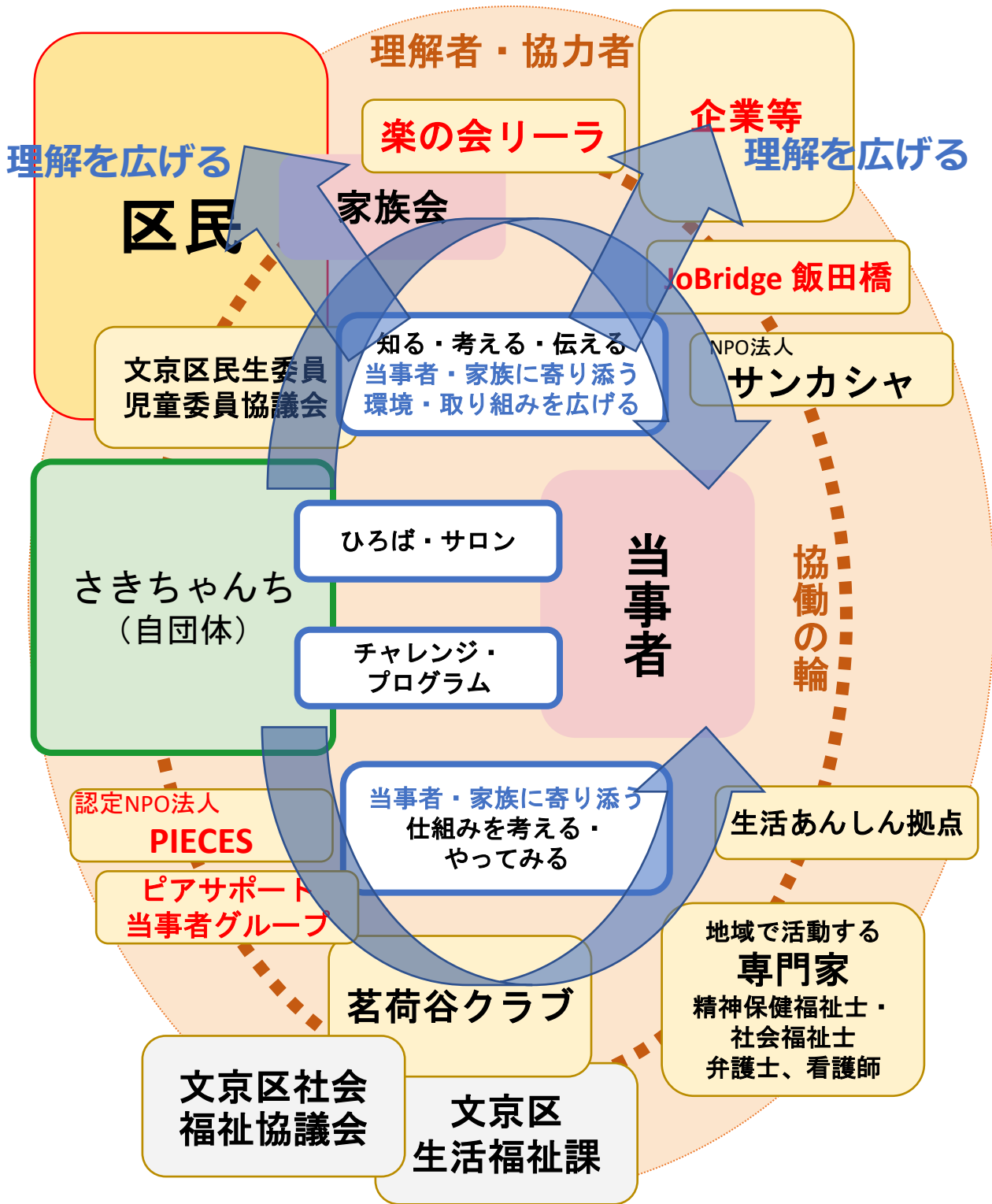
理解者・協力者



STEP

別紙3: 関係者マップ(報告版)

作成日: 令和5年2月28日



赤字は新しい連携者・団体